

道連ニュース

2026年9月号 No.237

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

こども食堂北海道ネットワーク

事務局長 松本 克博

「学習交流会」・「チカホパネル展」活/動/報/告/

平素よりの様々なご支援、大変有難うございます！2026年上半期の重点課題の2つが無事に終了しましたので以下、報告させていただきます！

1) 道央圏「学習交流会」報告



2026年7月11日(土曜) 13:30～16:30にて札幌駅前国際ホールにて90名近い「運営者」「行政」「支援事業者」さんが「こどもの安全な居場所づくり～子どもとの触れ合い！スキンシップ！」等の様々な事象や出来事を全国の事例に基づき学び・交流致しました。

講師には全国支援センターむすびえ・渋谷氏、カコタム理事長高橋氏にお願いして「運営者側」がとりわけ留意すべき諸点について講演を頂きました。

2) こども食堂認知度向上～チカホパネル展終了！

本年のパネル展の特徴としては①北海道庁福祉部様なお「こども権利」に関する6枚のパネル参加。②札幌市子ども未来局様よりの「こどもコーディネーター活動」紹介の2枚のパネル参加。③運営者さんからの「案内パンフ」120団体参加、と云うかってない規模での開催となりました。チカホを歩く、道民、市民、観光客の皆さんに両日で450枚の活動パンフをお持ち帰り頂き、道内での活動の広がりを実感いただきました。



北海道庁提供のパネルに見入る来場者



ボリュームアップした展示物

3) 第3回「運営者+支援者交流会」案内中です！

10/8(木) 13:30～16:30

大変好評を頂いております同交流会ですが申し込みが殺到する企画です！道生協連関連団体様には、ご案内を発信済です！お早めのお申し込みを宜しくお願い申し上げます。

北海道協同組合就活サミット2026 開催報告

～ 12団体が結集！「体験×対話」で協同組合の魅力を未来の担い手へ熱感伝達～



【開催概要】

- ・日時：2026年7月11日(土) 10:00～14:30
- ・会場：北農ビル19階 第1～4会議室（札幌市中央区）
- ・主催・規模：協同組合ネット北海道（事務局：北海道生協連）／12団体参画
- ・参加学生：実出席96名（事前申込109名／2028年卒等の大学生・大学院生、道内12大学等より集結）
- ・参画団体：JA 中央会、ホクレン、JA 北海道信連、北海道漁連、北海道森林組合連合会、北海道信漁連、こくみん共済、北海道労働金庫、コープさっぽろ、大学生協事業連合、JA 共済連、北海道生協連

開催主旨

若年層における協同組合の認知拡大と採用難の解消、そして就職先の重要な選択肢としての定着を目指し、今年で3回目となる「北海道協同組合就活サミット2026」を開催いたしました。

今年度は新規参加2団体を含む12団体が結集し、自前集客と手作りの体験型プログラムにより、低コストかつ高エンゲージメントなイベントを実現。アンケート結果では過去最高の熱量と満足度が実証されました。

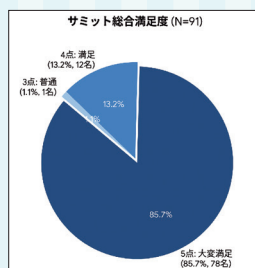
アンケート分析データ（参加学生 N=91回収結果）

参加学生からの回答データを分析した結果、従来の合同説明会のような「一方的な説明」ではなく、「体験・対話型」の構成が学生の心を強く捉えたことが明らかになりました。

主要グラフデータ

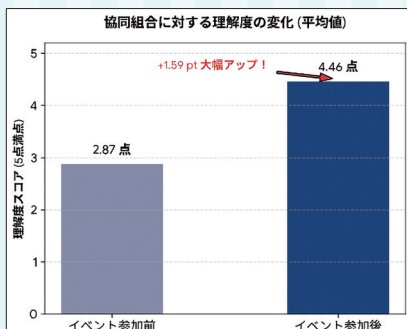
1. サミット総合満足度（5段階評価）：総合満足度：4.85/5.0点（「5：大変満足」が85.7%／78名。不満回答ゼロ）

- ・5点（大変満足）：85.7%（78名）
- ・4点（満足）：13.2%（12名）
- ・3点（普通）：1.1%（1名）



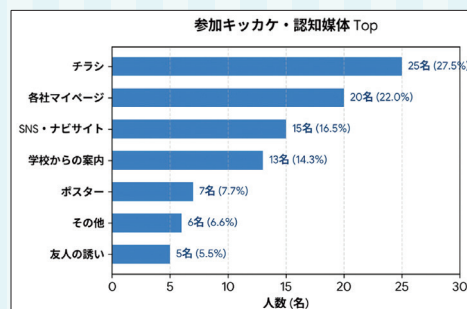
2. 協同組合に対する理解度の変化（平均値）：理解度スコア変化：2.87点→4.46点へ大幅上昇（平均＋1.59pt アップ！）

- ・イベント参加前：2.87点（「ほとんど知らない・名前程度」が46.2%）
- ・イベント参加後：4.46点（「よく理解できた」が91.2%へ激増）



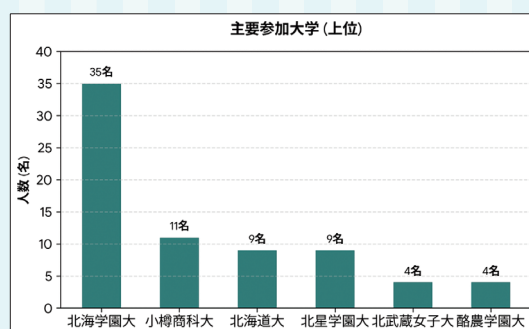
3. 参加キッカケ・認知媒体 Top：

- ・チラシ：27.5%（25名）
- ・各社マイページ：22.0%（20名）
- ・SNS・ナビサイト：16.5%（15名）
- ・学校からの案内：14.3%（13名）
- ・ポスター：7.7%（7名）
- ・その他：6.6%（6名）
- ・友人の誘い：5.5%（5名）



4. 主要参加大学（上位）：

- ・北海学園大学（35名）、小樽商科大学（11名）、北海道大学（9名）、北星学園大学（9名）、北海道武蔵女子大学（4名）、酪農学園大学（4名）ほか帯広畜産大学・旭川市立大学など道内全域から参加。



分析ポイント

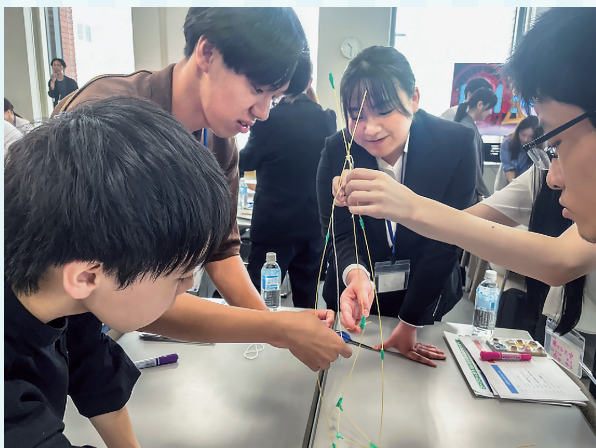
- ・理解度の劇的向上：参加前は「あまり理解していない(1～2点)」が46.2%を占めていましたが、参加後は「よく理解できた(4～5点)」が91.2%へと激増。協同組合の本質や役割が確実に届いたことが証明されました。
- ・リアル×デジタルの集客連携：紙媒体(チラシ・ポスター)が約35%を牽引したほか、各団体マイページやSNSなど、既存ルートを持ち寄った分担型集客が奏功しました。

■ 熱気あふれる当日プログラムと現場のドラマ

当日は「体験→対話→交流」の流れを重視し、学生がリラックスして本音で語り合える場づくりを徹底しました。

1. アイスブレイク(マシュマロチャレンジ)：

パスタで自立タワーを作るグループワークを通じ、学生同士の緊張をほぐしチームワークを醸成。



2. 業界研究&模擬紙幣獲得クイズ大会：

各団体が出題する3択クイズに正解することで模擬紙幣(100万円束)を獲得するゲーム形式。正解発表時には担当者が登壇して2分間で事業の魅力を解説し、楽しみながら理解を深めました。



3. 採用担当トークショー&新聞等メディア報道：

ひな壇形式で各団体担当者が登壇。「転職」「休日の過ごし方」「入社の決め手」など事前に寄せられた質問に本音で回答。公式スタンスにとどまらない個人のリアルな体験談が親しみと共感を呼び起こしました。

当日は業界紙の取材が入り、日本農業新聞(7/18日付)や北海道新聞(7/11日デジタル版)で報道。北海道信漁連の担当者が「漁船建造支援に関わった際、漁師さんから大漁旗を立てて『どうもありがとう』と言われた体験」を語ったエピソードなどが大きく紹介されました。



4. 座談会・個別交流(ぶら下がり対応)：

座談会では学生6名テーブルを採用担当者が巡回(8分×3ターン)し、司会者からすべての質問に採用担当者なんでも答えます!という無茶ぶりに採用担当者にとってはドキドキの瞬間。終了後も約20～30名の学生が会場に残って個別質問(囲み説明)を行うなど、非常に高い熱量が窺えました。



■ 参加学生の「リアルな生の声」

- ・「雰囲気・司会など堅苦しすぎないフラットな雰囲気、就活サミットとは思えないほどポップで楽しかった!司会のテンポも最高でした。」
- ・「ホクレンさんや生協さんなど個別に知っていたが、多くの組織が連携して北海道を支えていることを初めて知った。働くイメージが一気に湧きました。」
- ・「人を助けて社会貢献できる仕事は魅力的だと思った。」
- ・「今日の内容で想像以上に組合と働く人々のことが大好きになり、絶対に組合で働きたいと思うようになりました!利益追求ではなく誰かの役に立つ姿勢に深く共感した。」

次世代育成は未来に対する最も確実な投資です。

今後も14団体の強い連携のもと、北海道の未来を担う人材の循環を構築してまいります。



第3弾 体験格差の解消企画

ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト
学生メンバー
札幌市立開成中等教育学校 高校1年生

山中 瑚心

『ブルーベリーを収穫してアイスを作ろう！ バスツアー in ホクレンくるるの杜』

活動報告

日時：2026年7月25日（土）

会場：ホクレンくるるの杜

参加者：大人11名、子供14名、学生6名、事務局3名 計36名

連携団体：北海道生活協同組合連合会、(株)FUJI、ひとり親とこどもふぉーらむ北海道

協力：ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト



教わった特徴を頼りに、夢中で探したブルーベリー収穫

今回のバスツアーでは、ブルーベリーの収穫から自分たちで行い、収穫したブルーベリーを使ってアイスクリームづくりに挑戦しました。最初に、職員の方か



らブルーベリーについてのお話を伺いました。おいしいブルーベリーは、実の表面に白い粉（ブルーム）が付いているものや、木の上の方に実る黒に近い濃い紫色のものだと教えていただきました。説明を聞いたあとは、いよいよブルーベリーの収穫です。1人30粒収穫することになり、子どもたちは「今何粒だっけ？」「あと5粒！」と数えながら、おいしそうなブルーベリーを夢中で探していました。教えていただいた特徴を思い出しながら、1粒1粒そっと丁寧に摘み取る姿が見られました。中には、おいしそうな実がたくさんついた木を見つけると、「こっちにたくさんあるよ！」と周りの子どもたちに教えてあげる姿も見られ、参加者同士で和気あいあいと収穫を楽しむ様子がとても印象的でした。

親子で力を合わせた、大興奮のアイスクリームづくり

収穫を終えたあとは、自分たちで収穫したブルーベリーを使ってアイスクリームづくりを行いました。まずはブルーベリーをつぶし、生クリームなどの材料と混ぜ合わせました。工程には2人で行う作業が多く、親子で「次はこれ混ぜてね」「上手だね！」と声を掛け合いながら楽しそうに協力して取り組む姿が見られました。材料を混ぜ終えた後は、氷と塩が入った袋にアイスクリームの材料が入った袋をいれ、さらにタオルに包みました。氷と塩を使うことで、冷凍庫を使わなくてもアイスクリームを冷やし



固められる科学の不思議も学びました。そして、タオルの両端を親子でそれぞれ持ち、リズムよく10分間シャカシャカと振り続けてアイスクリームを冷やしました。10分間振り続けるのは思っていた以上に大変で、途中には「腕が疲れてきた〜!」「ちゃんとできてるかな」という声も聞こえてきましたが、最後まで諦めずに一生懸命振り続けていました。タオルを開いて完成したアイスクリームを確認した瞬間「うわあ、ちゃんと凍ってる!」「はやく食べよう!」と子どもたちからは弾けるような笑顔があふれていました。

自分たちで手摘みしたからこそ味わえる格別の美味しさ

完成したアイスクリームは、自分たちで収穫したブルーベリーを使っていることもあり、格別の美味しさだったようです。「ブルーベリーの味がしっかりしておいしい!」「家でも作ってみたい!」といった感想も聞かれ、子どもたちは最後まで笑顔で体験を楽しんでいました。アイスクリームづくりを楽しんだ後は畑へ移動し、ピーマンとシシトウの収穫体験もさせていただきました。子どもたちは宝探しのように、大きなおいしそうなピーマンとシシトウを頑張って探して収穫をしていました。



食育と感謝、そして子どもたちの挑戦を支えるきっかけに



今回のバスツアーを通して、自然の中で収穫するワクワク感や、自分たちで収穫した食材を使って調理する喜びや大変さを肌で感じることができました。また、職員の方によるブルーベリーの育て方のお話では、おいしい実を育てるために1年を通してどれほど丁寧な手入れが必要であるかを教えていただきました。普段何気なく食べているブルーベリーは、1粒はとても小さいですが、私たちの手元に届くまでに生産者の方々による多くの手間や時間がかけていることを知りました。食べ物のありがたさや、生産者の方々への感謝の気持ちを改めて深く実感することができました。今後も、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを引き出し、1人1人の発見や挑戦を支えられるようなきっかけを作っていきたいです。



北海道大学フレッシュマンセミナー「協同組合を学ぶ」

～未来へつなぐ協同の輪：北大生が体験した北海道の今～ 実施報告



日時：①フィールドワーク（現地視察）：8月5日（水）～6日（木）
②集中講義（座学）：8月7日（金）～8日（土）

- 受講対象：北海道大学1年生（定員40名／応募137名）
- 担当：協同組合ネット北海道 担当事務局（北海道生協連、JA中央会、ホクレン、北海道森連、北海道漁連、コープさっぽろ）

■ 地域社会の未来を担う「協同」の教育的使命

北海道の持続可能性を支える基盤は、地域に深く根差し、互助の精神で課題を解決する「協同組合」という組織形態にあります。協同組合ネット北海道に加盟する14の協同組合組織が連携して実施する北海道大学フレッシュマンセミナー『協同組合を学ぶ』は、農山漁村や地域が直面する社会経済的課題に対し、次世代を担う若者たちが現場で学び、課題解決の力を養うとともに協同組合の役割を捉え直す重要な教育機会となっています。

今年で4回目を迎えた本講座は、定員40名に対して130名を超える応募が集まる人気講座として定着しています。1泊2日のフィールドワークと2日間の集中講義（リレー講座）融合させたプログラムを提供しました。

■ 食・資源・暮らしの循環を体感する1泊2日のフィールドワーク

座学に先立つ現地視察では、学生たちが「協同組合＝古い組織」という既成概念を打破し、協同の力が生み出す経済的合理性と地域インフラとしての価値を体感する戦略的アプローチとして実施されました。

1日目 食の流通・環境保全・地域農業の最前線



○ホクレンパールライス石狩工場：

徹底した品質管理や広報の工夫を視察し、安全・安心な主食を届ける大規模インフラの重要性を学びました。



○コープさっぽろエコセンター：

365日稼働する資源循環の拠点を見学。手作業による選別工程を目の当たりにし、学生からは「自分のゴミ分別意識が劇的に変わった」との声が上がり、行動変容を引き出す教育効果が確認されました。

○JAながぬま：

個別の農家では困難な大規模投資を共同利用で実現する協同組合の強みを学習。ブロックリーの氷詰輸送やトマトの選別機などの出荷現場を視察しました。

- 視察後は当麻町へ移動し、「当麻ヘルシーシャトー」に宿泊。1日目の学びや気づきを共有し合い、交流を深めました。



2日目 森林資源の循環と沿岸漁業を支える現場



○当麻森林組合・当麻森林組合製材工場：

原木から製品へのダイナミックな製材工程を間近で見学。地材地消モデルや若手の安定雇用を生み出す先進的な経営姿勢、資源を無駄なく利用する姿勢に感銘を受けました。

○北るもい漁協・北るもい製氷工場：

マイナス25～30℃に達する極寒の製氷冷凍施設での体験は強烈なインパクトを与えました。「過酷な環境下で水産物の鮮度を維持し、漁業者を守る不可欠なインフラである」ことを肌で感じ、漁協が地域経済の命綱であることを実感しました。



■ 14協同組合による多角的な理解を深める2日間の座学

後半の2日間は北海道大学の教室にて、業態の枠を超えた14の協同組合担当者がリレー形式で講義を行いました。

農業、漁業、林業、金融、共済、医療、購買など多岐にわたる分野が一堂に会し、それぞれの事業内容や理念、現代社会で果たすセーフティネットとしての役割を解説。株式会社との組織的な違いや「組合員一人ひとりの暮らしを支える」という共通の価値軸で各組織が多層的に連携している姿を示し、学生たちの理解を大きく深めました。



【受講生の主な感想】

- 普段なかなか知ることができない、協同組合の仕組みや存在意義、働いている人たちの想いを知ることができてとても貴重な体験でした。
- 協同組合について知れるいい経験になりました。自分では工場や組織の見学などできなかったので楽しく学べる今回の特別授業は大変良いものでした。ありがとうございました。
- 全体として非常に満足の内容だった。自分だけでは恐らく行かないような遠方に行き、協同を学

ぶという珍しい経験ができて良かった。協同組合というものをあまり知らない状態で参加したが、終了する頃には自信を持ってある程度説明出来るぐらいには学べて、協同組合に対する見方が変わったと思った。

- 今回の講義を通して、協同組合は単に商品やサービスを提供するだけでなく、地域の生活や産業を支える重要な役割を担っていることが分かった。普段は意識していなかった地域社会の仕組みについて知ることができ、興味深い講義だった。

■ 北海道の未来を「協同」でデザインするために

この4日間の学びを通じて、学生たちは北海道の一次産業の現場や地域社会が抱える課題、そしてそれらに向き合う協同組合の役割を肌で感じ取ってくれました。現場で湧き上がった「なぜこれほどの手間をかけるのか」という問いと発見は、学生たちの意識を劇的に変えるきっかけとなりました。

6月に開催した『北海道協同組合就活サミット』や今回の『北海道大学講座』のように、未来を担う若い世代に協同組合の価値を伝え、興味を持つきっかけを作る取り組みは、将来の地域社会を支える「人材の循環」を構築する上で極めて重要です。私どもはこれからも他組織や教育機関との連携を強化し、北海道の持続可能な未来を共に創り上げてまいります。

2026年度

第2回 理事会報告

8月20日(木)ポールスター札幌にて齋藤理事(北大生協)を議長に選出し、開催致しました。冒頭、中島会長の挨拶ののち、以下の事項について提案があり、承認されました。

日本生協連北海道東北地連事務局長より令和8年熊本地震及び千葉県豪雨災害の被災状況や災害支援の状況について報告がありました。また、会員生協報告では、出席された会員生協より、この間活動報告や事業をめぐる環境について報告がなされました。

【議決事項】

1. 2026年度理事会の議長推薦の件
2. 2026年度役員報酬明細決定の件
3. 個人情報保護に関連する規則(案)の施行の件
4. 危機管理マニュアル(案)施行の件
5. 「定款・規約・規則・規程集」の改訂版作成の件
6. 「令和8年熊本地震」への募金の件

【審議事項】

1. 70周年記念事業の進捗
2. 70周年記念パンフレット作成の件
3. LPガス問題の進捗
4. 灯油の適正価格・安定供給
5. 協同組合ネット北海道の取組進捗

【報告事項】

1. 一般活動報告の件
2. 第70回総会報告
3. 第1回理事会報告
4. 第1回監事会報告
5. 4-7月決算報告
6. ユニセフ ベネズエラ地震緊急募金拠出の件
7. こども食堂北海道ネットワークの進捗
8. ほっかいどう若者応援★学生PJの進捗
9. 北海道からの通知及び友好団体・協賛・後援の件
10. 日本生協連北海道・東北地連報告
11. 会員報告

以上

北海道労働者共済生活協同組合

第73回 北海道労働者共済生活協同組合通常総代会が終了しました

～ 2025年度事業報告および2026年度事業計画が確認されました～

2026年7月30日(木)、ホテルポールスター札幌において、「第73回 北海道労働者共済生活協同組合 通常総代会」および「第9回 こくみん共済coop北海道推進本部 組合員代表者会議」を開催しました。今総代会(代表者会議)には、総代(組合員代表者)130名中、書面議決等を含む121名が出席し、総代会では「2025年度事業報告および決算報告承認の件」など9議案、代表者会議では「2025年度北海道推進本部推進活動報告について」など3議案の付議事項について審議し、いずれも承認されました。

こくみん共済coopは、この間、「中期経営政策2022-25 変革と創造」を掲げ、めざす姿の実現に向けた変革に挑戦するとともに、お役立ち発想と共創活動にデジタル技術を取り入れた「新しいたすけあい」の創造・実践を通じて、事業の持続的成長と運動の発展をめざしてきました。

また、昨年の国際協同組合年(IYC2025)は、当会



としても協同組合および共済事業が果たす役割や価値を社会に広く発信する貴重な機会となりました。国際協同組合年は、持続可能な社会の実現に向けて協同組合が果たす役割への期待を背景に国連が定めたもので、今後も10年ごとの開催が見込まれています。

IYC2025を契機として高まった機運を大切にしながら、その成果を今後の活動に活かし、協同組合の社会的価値の継続的な発信と理解促進に取り組んでいきます。

2026年度からは、新たに「中期経営政策2026-29 Action & Challenge」を掲げ、「新しいたすけあい」の創造・実践をさらに推進し、次なる挑戦につなげてまいります。また、少子高齢化や人口減少などにより事業環境が変化する中、引き続き「暮らしを支える共済事業」や「防災・減災の啓発活動」、「災害時における無保障者をなくす取り組み」などを通じて、安心して暮らせる社会の実現と社会課題の解決に向けて努力を重ねていきます。

今後とも、組合員ならびに関係諸団体の皆さまの変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

